

情報通信審議会情報通信技術分科会 ITU 部会
周波数管理・作業計画委員会第 9 回会合議事概要

- 1 開催日時
平成 28 年 4 月 20 日（水）10：00～12：10
- 2 場所
総務省（合同庁舎 2 号館）11 階 第 3 特別会議室
- 3 出席者（敬称略）
 - ・ 専門委員：
小林 哲、阿部 宗男、岩間 美樹、小笠原 守、小川 博世、田村 知子、
橋本 明、正村 達郎、矢野 由紀子
 - ・ 関係者：
石田 和人、金子 雅彦、亀谷 収、加茂 公朗（北野 元の代理）、河合 宣行、
川西 直毅、北澤 弘則、久保田 文人、河野 隆宏、上土井 大助、
河野 健司、篠原 真毅、庄木 裕樹、菅田 明則、高尾 浩平、田北 順二、
田中 謙治、碓 琢己、鞆田 健、中村 隆治、根岸 聡、野田 華子、
博多 宣雄、橋本 昌史、高部 政志（服部 光男の代理）、浜口 清、藤沼 広一、
渡邊 恒彰（松井 淳の代理）、山内 洋
 - ・ 事務局：
新田 隆夫、岩間 健宏、松田 純、小木曾 彩菜、杉野 勲、大石 通明、
横田 幸男
- 4 議事
 - 1 RA-15、WRC-15 及び CPM19-1 の結果について
 - 2 RAG 会合への対応について
 - (1) 対処方針（案）の審議
 - 3 SG1 ブロック会合への対応について
 - (1) 寄与文書（案）の審議
 - (2) 対処方針（案）の審議
 - 4 その他
- 5 議事概要

議事に先立って、事務局より、新たな構成員として三木委員の紹介を行った。

 - (1) RA-15、WRC-15 及び CPM19-1 の結果について
資料 9-1(参考資料 1, 2)に基づき、事務局より説明が行われた。
 - (2) RAG 会合への対応について

資料 9-1(参考資料 4) に基づき、事務局より説明が行われ、対処方針について承認された。また、RAG 会合への日本寄与文書の入力はないことが確認された。

(3) SG1 ブロック会合への対応について

参考資料 7 に基づき、事務局より CISPR 会合の結果について報告が行われた。また、SG1 ブロック会合における日本寄与文書について、各提出者より説明が行われた。意見交換での主なコメントは以下のとおり。

■資料 9-3-1 について

本寄書は既存のレポートの SM. 2353 を改訂提案に変更予定。

(阿部) 用語の使い方として、日本語概要の「経緯」の欄に PDNR を「承認し」とあるが、「採択」と「承認」はそれぞれ SG レベルでの合意と主管庁レベルで最終合意された場合に用い、特別な意味を持つ。この場合は PDNR が「合意された」など採択・承認以外の用語を用いるべき。

(主査) 文書の承認手続や用語については ITU-R 決議 1 に記載されているため、参照し必要な修正を行うこと。

(橋本明) 資料 9-3-2 にも共通するが、寄書本文「2. Discussion」の最終パラグラフにおいて、「Coordinated activities with WP1B and the concerned group will be necessary」とあり、WP1A が WP1B を巻き込んで活動するといったニュアンスになっている。実際には CPM19-1 で WP1B が責任グループとなっていて、誤解を生じないようにするため「Coordinated activities between concerned groups～」としてはどうか。また、同段落の最終文書 CPM テキストの提出期限について言及しているが、提出は SG1 が CPM にするのではなく、正確には責任グループである WP1B が CPM19 のマネジメントチームに提出することとなるため、そのような表現に修正すべき。

(主査) 本提案は既存のレポートの改訂であり、CPM19-1 で WP1B に assign された EV 向け WPT の利用周波数とは別物。混乱を招くため「2. Discussion」の最後のパラグラフの書きぶりについては検討してほしい。

■資料 9-3-2 について

(橋本明) 寄書本文「2. Discussion」において、資料 9-3-1 と同様の修正が必要

(阿部) BR 議長という表現は誤りと考えられ、BR 議長→BR 局長に修正すべき。

(橋本明) Impact という用語は通常、被干渉側が使用する用語であり、導入する側があえてこの表現を使用する必要があるのか要検討。

(主査) Impact については去年の WP1A や SG1 でも議論された。日本からの提案では Coexistence Study や Sharing Study というニュートラルな格好であったが、他国から「WPT はそもそも Radio Communication service ではないので、Radio Communication service に対する Impact のみ考

えればよく、逆の視点は不要」との指摘があった。「Coexistence という概念は ITU では許されないし、Sharing ということでもない」という昨年の議論を踏まえ、気を遣って使用している。

(石田) 補足すると、Studies on the impact of WPT to Radio Communication service であるとの意見があったことから、それを踏まえて Impact study としている。

(橋本明) Studies on the impact of WPT といった言い方であれば受け入れられるだろう。

■資料 9-3-3 について

本日の資料は、日本語の部分が残る、体裁が整っていない部分もあるため、今後修正予定。

(主査) 寄書本文の TABLE 2.1 に WPT アプリケーションで想定されている周波数帯が記載されているが、既存のレポートの作業文書との横並びを見て修正すべきか検討が必要

(事務局) Beam WPT については、国内の関係者が広がってきており、単なる技術の紹介ではなく、周波数に関する調整が必要なフェーズに差しかかっているように思われる。日本提案として前に進めていくにあたり、BWF での調整はどのような状況であるのか確認したい。

(篠原) 共用検討といった詳細はまだ精査できてはいないものの、今後必要化していくフェーズに入るので、対応していきたい。

■資料 9-3-4 について

(主査) レポートの作成のための work plan を提案するものであれば、寄書本文「2. Proposal」の書きぶりを検討すべき。

(菅田) 「TABLE 2.1」における周波数帯の記載はより具体的に示すべきでは。(「幅」だけではビームの特性が表現できていないため。)

(篠原) 影響度についての検討が進行中のため、幅という表現を使用。具体的な周波数幅は検討結果に左右される。

(上土井) 寄書本文「5. Work Plan」では実用化の時期について記載しているが、レポートの作成時期に修正する。

■資料 9-3-5 について

(橋本明) WP5A, 5C からのリエゾン文書が送付されるとの条件付きで WP3J, 3K, 3M へのリエゾン文書案を提案しているが、WP1A の寄書の提出期限までに WP5A, 5C は終わるため、その結果を踏まえて寄書を修正し、入力すべき。

(亀谷) SG7 は 4 月に既に開催しており、議題 1.15 についての文書が近々出る可能性があるため、そちらも反映するようにお願いしたい。

■資料 9-3-8 について

(小林) 寄書本文の ANNEX のタイトルを削除しているのはミスではないか。また、寄書全般において、見え消しとすべき箇所が正しいかも含めて検討すべき

(阿部) 寄書本文の Introduction には、日本・ドイツが提案する経緯を記載すべき。

■特定の資料に限らない議論

(河合) WRC-19 議題 9.1.6 については、日本から提案し、議題化されたものの認識であるが、作業計画などを日本から入力しないのか。

(小林) 議題 9.1.6 については既に WP1B の議長より入力されており、どういうタイミングでどういう章立てで書くという提案が出ている状況。その中身を埋めるための詰めの作業を現在行っているところである。

■対処方針に関する意見交換での主なコメント

(資料 9-5)

主要議題の対処方針 (1) 及び (2) については、本日の意見等を踏まえ修正予定。

以 上